山根貞男のお楽しみゼミナール

「銭形平次捕物控・幽霊大名」のいちばんの見ものは、むろん長谷川一夫の平次の活躍であるが、それに加えて、市川雷蔵の魅力も無視できない。市川雷蔵はこの直前、「花の白虎隊」でデビューして、これが二本目の映画にあたる。

「花の白虎隊」は、ほかに勝新太郎と花柳武始もデビューし、いわば新人売出しの映画であった。市川雷蔵はそれにつづいて長谷川一夫と共演したわけで、明らかにこれは、右も左もわからない新人を、年季のはいった大スターと共演させることによって鍛えようとの狙いにちがいない。

映画の黄金時代には、こういうケースがよく見られた。他社の例をあげれば、のちに事故死した赤木圭一郎も、いまなお大活躍している渡哲也も、最初期には、すでに絶大な人気を誇っていた石原裕次郎との共演作で売り出され、目活アクションの隆盛を築いた。いうなれば、新人がトップ・スターの胸を借りて成長するのである。

市川雷蔵は、つぎの作品「千姫」では〝グランプリ女優〟京マチ子と共演している。また、中村玉緒が前年に松竹でデビュー後、東映作品にも出て、この映画で再デビューしているのも、同じ事情であろう。

市川雷蔵はこの「銭形平次捕物控・幽霊大名」で、二役を演じる。しかも、いっぽうは患人の役である。深読みするなら、もしかしたらこれも新人対策で、まったく対照的な二つの役柄を演じさせ、新人の芸の幅を広げるとともに、その新人の個性を見分けようとしたのかもしれない。

それはさておき、市川雷蔵は二役をナイーブに演じ分けているが、善玉のほうも悪玉のほうも、暗く寂しげな表情がなんとも印象深い。やがて大スターになってからも、市川雷蔵の個性は陰影の深さにあり、それが、すでにこの映画出演第二作に色濃く発揮されているのである。

■キャスト
銭形平次　長谷川一夫
金太郎子之助（金太郎子之助）市川雷蔵
お　静　井川邦子
百　合　長谷川海太郎
おえん　村田知英子
村　岡　神代　錦
たより　中村玉緒
佐田和泉守　柳　永二郎
八五郎　笠野新三郎
朝田小太郎　澤村国太郎
堀田相模守　香川良介
酒井左衛門尉　荒木　忍
巣　海　栗　良之助
磯村半太夫　雷田仲次郎
浮世の武士　大邦一公
雨田男右衛門　玉置一恵
お静の母　芝田雅二
おえんの母　村岡美弥子
松　江　金魚姫子
小林加奈枝

■スタッフ
企画●辻　久一
原作●野村胡堂
脚本●八住利雄
監督●弘津三男
撮影●牧田行正
音楽●渡辺浦人
美術●上里義三
照明●加藤庄之丞
録音●海原幸夫
編集●富田耕造
TND9452
昭和29年度作品
91分・モノクロ

解説

長谷川一夫の当り役となった〝銭形平次〟の一本である。新東宝の「平次八百八丁」を第一作に、大映に移って新たに「銭形平次」となり、以後「銭形平次捕物控」シリーズとして続けられて来た長谷川一平次は、これが第七作目。相変らず、投げ銭、投げ縄スタイルをきりっと決めて、いなせな味わいを見せている。

この作品は長谷川を囲む共演者が豪華で、「花の白虎隊」でデビューした市川雷蔵、宝塚の神代錦、「二十四の瞳」の井川邦子、長谷川一夫の妻の長谷川裕見子、「月よりの使者」の村田知英子、演劇出身の柳永二郎、名脇役の渡辺篤、沢村国太郎、香川良介など。なかでも市川雷蔵は、このあと長谷川と同タイプの二枚目スターとして売り出されてゆき、長谷川の人気をゆさぶるライバルとなってゆく。

また、この作品で中村玉緒がデビューしている。

原作はもちろん野村胡堂。脚本は「細雪」「月よりの使者」の名ライター八住利雄。そして監督はこれがデビューとなる弘津三男で、以後時代劇のエースとなって行く。

なお、長谷川一平次ものはこのあと十一本製作され、全部で十八本を数える。

◎本商品は保存版版からの最良の状態で製作しておりますが、映画公開時より長い年月を経ておりますので、一部作品にはお見苦しい場面もございます。あしからずご了承下さい。

銭形平次捕物控・幽霊大名

映